

## サ を 生 き る (16)

### 【感謝の典礼】(2)

#### ■祭壇の準備

感謝の典礼のはじめに、司祭と奉仕者が、感謝の典礼全体の中心である祭壇に、ミサ典礼書、カリス、コルポラーレ、プリフィカトリウムなど必要なものを準備します。

#### ■奉納行列

次に、供えものが運ばれます。信者の代表は、パンとぶどう酒、また教会と貧しい人を助けるための献金を運びます。

司祭と奉仕者が受け取り祭壇に運びます。

#### ■奉納の歌

行列して供えものが運ばれる間、奉納の歌が歌われます。それは、少なくとも供えものが祭壇に置かれる時まで続けます。奉納行列が行なわれない場合であっても、奉納の歌を歌うことができます。

奉納の歌を歌わない場合、司祭は「パンとぶどう酒を供える祈り」をはっきりと唱え、結びに会衆は、はっきりと応唱します。

#### ■パンとぶどう酒を供える祈り

パンを供える祈りとぶどう酒を供える祈りもどちらも、司祭の「神よ、あなたは万物の造り主」という祈りから始まります。

そして、司祭の祈りに、会衆は同じく「神よ、あなたは万物の造り主」と答えます。

また、「ここに供えるパンはあなたからいただいたもの」、「ここに供えるぶどう酒はあなたからいただいたもの」と繰り返され、神の絶対的な恵みと祝福を強調し賛美と感謝をささげます。

また、パンもぶどう酒も「大地の恵み、労働の実り」であることを確かめ、神と自然と人間の豊かな実りを結ぶいのちの協働の神秘を讃えます。

#### ■ 祈りへの招き

続いて、司祭は祭壇の中央に立ち、会衆に向かって、招きのことばを述べます。

新しい「ミサの式次第」では、「会衆は立って答える」と必ず答えることとなります。

また、司祭の招きの「ともにささげるこのいけにえ」ということばに留意しましょう。

司祭が一人でささげるのではなく、会衆も心を合わせて「ともにささげる」心構えを大切にする必要があります。